

月刊経済誌くまもと経済が発行する生活情報誌

くま経 プレス

2013年8月号 vol.283

【発行所】くまもと経済・(株)地域経済センター
〒860-8552 熊本市中央区細屋町1丁目2-2
TEL096-359-7777 FAX096-326-4259
【発行日】平成25年7月29日(毎月1回)
ホームページ⇒ [くま経プレス](#)

輝きひと Interview:38

鍼灸師資格取得を目指す 樋口 智子さん

就職や生活水準を向上させるために必要な教育や技術の取得を目指す女性に贈られる「WAO賞」(国際ソロプロチミスト主催)。同賞を今年、日本とアメリカ連盟でも見事第1位を受賞した熊本在住の樋口智子さん。夫のDV、「網膜色素変性症」の発症、離婚という辛い経験をしながら、現在、鍼灸師の資格取得を目指し熊本県立盲学校に通うとともに、整体サロンでも勉強中。7月18日、樋口さんに整体サロン「COCORO」(熊本市中央区崇山8丁目)で、今後の目標などをインタビューした。

—WAO(女性に機会を与える)賞受賞の感想は。
樋口 「まさか私が」という思いが強く、非常に光榮で嬉しく思っています。受賞させていただいたからには責任も伴いますので、賞に恥じないよう、同じように苦労されている女性の目標になれるように頑張っていきます。

—「網膜色素変性症」という眼の病気は。

樋口 結婚している時に、目は見えているのに体を机のかどや柱にぶつけたり、人にぶつかったりすることが時々出始めました。自覚症状はありませんでしたが、危ないからと主人に言われ、病院に行きましたら、将来的に失明するという「網膜色素変性症」という病名を告げられました。最近は自覚症



日本・アメリカで「WAO賞」受賞

ひぐち ともこ／阿蘇郡出身。1971(昭和46)年2月4日生まれの42歳。尚絅短大卒。栄養士の資格を生かし就職。その後、結婚し3男をもうけるが夫のDVなどもあり2男と3男をつれ離婚。「網膜色素変性症」という進行性の眼の病気を抱えながらも熊本県立盲学校で鍼灸師の国家資格取得を目指し通学中。土日は整体サロンに勤務。「WAO賞」には国際ソロプロチミスト熊本一すみれが推薦

状として以前より少し見えにくいく感じています。治療法も今はありますんが、iPS細胞の活用で少し希望の光が見えはじめました。

—DVと眼の病気が離婚のきっかけに。

樋口 そうですね。DVは人それぞれだと思います。私の場合は言葉の暴力、身体的な暴力があり、それを受けないために、夫のいいなりになり、相当気を使い過ごしていました。辛かつたですね。子どもも3人授かりましたが、何とか子どもたちが成人するまでは離婚を我慢しようと思っていました。しかし、全盲になるという眼の病気も発症しましたので、最終的には眼がまだ見えるうちにという決断を下しました。長男を主人に預け、2男と3男を私が引き取り

ました。今は、2男が大学生、3男が高校3年生になりました。私は平日の昼間は鍼灸師の資格を取得できるように熊本盲学校に通い、週末は熊本市内の整体サロンで現場の勉強をさせていただいています。

—将来の目標や夢は。

樋口 鍼灸師の国家資格取得を目指して盲学校に通っていますが、資格取得後は鍼灸師の中でも「美容鍼灸師」になりたいと考えています。鍼灸師として技術的なことはもちろんですが、加えて心が弱っているような人を助けられるよう内面(心)も外面も美しくなりたいという女性の方々のケアができるような鍼灸師になりたいと思っています。

この秋、農村体験!

種まき・収穫・そば打ち体験会

都市と農村との交流会 参加者募集!

「生産農家見学・交流会」

合志市の農・酪農家と触れ合う交流会

この秋、合志市の農家が栽培するソバの種まきを手伝い、その後、収穫、12月にそば打ちまでを体験するイベントを実施します。「合志あぐつ!村」運営協議会が合志市の協力で実施する事業の一つ。

現在、この3回のイベントに参加してもらえる熊本市内の主婦、OL、学生、児童など15人のメンバーを募集中です。酪農家や、スイカ農家などでの昼食、懇談のティータイムもお楽しみ下さい。参加費は無料。応募多数の場合は抽選。応募希望者には日程が決定次第お知らせします。

開催日、実施要領などが決定次第、参加希望者にお知らせ致します。 ●お問い合わせ●お申し込みは ☎ 096-351-3333 (徳永まで) tokunaga2@gmail.com